

スクラム

2021.7

《 With コロナ時代のがん検診について 》

呼吸器内科 科長 片山 伸幸

2019年に中国の武漢から始まった新型コロナウイルスの世界的な拡がりは、ワクチンという希望が出てきたものの、まだまだ終わりがみえません。日常生活への影響はもちろん大きいものですが、医療体制におけるインパクトは未曾有の事態となっています。呼吸器内科の診療における影響は特に大きく、大きな呼吸をしなければいけない肺活量の検査などが制限され診断に支障が出ています。また、咳、痰、発熱の



Vol.66

患者さんの診療が簡単にできなくなり、受診控えをされる方が明らかに増えています。

受診控えは病院だけでなく検診の分野でも問題となっています。日本対がん協会が試算したところでは、2020年は例年受けていた検診を控えた人が多く、日本全体で約4万人の癌が見落とされたとされています。昨年の肺癌検診受診率は前年から32%減となっており、単純に考えれば検診で早期発見されていた肺癌患者の3人に1人が進行するまで診断されないことになります。幸い、金沢市の令和2年度の肺癌検診受診率は3.7%の減少と発表されていますが、検診を控えていたらみつかった時には肺癌が進行していたという患者さんが実際に外来で何人かいらっしゃいました。

肺癌は、以前は予後の悪い癌腫でしたが、現在は早期に発見されれば80%以上の治癒が見込めるようになっています。ただ、早期の肺癌で自覚症状がみられることはほとんどなく、症状が出てから病院を受診されるとほとんどが進行した状態となっています。進行肺癌と診断されても治療は近年飛躍的に向上しています。以前の抗がん薬治療は2ヶ月程度の延命効果でしたが、最近の治療法では臨床試験の段階で2年以上の延命効果があると示されるものもあります。以前であれば終末期と思われた状態の方が5年以上生存されることも珍しくはなくなっていますが、早期発見の方が治癒率ははるかに高いです。

かかりつけの先生方におかれましても、患者さんに是非がん検診受診を すすめていただきますようお願いいたします。

《 当科における体外衝撃波結石破砕術について 》

泌尿器科 医長 森下 裕志

体外衝撃波結石破砕術(ESWL)とは、腎臓や尿管の結石に対し、 体外で発生させた衝撃波を集中させて結石を破砕する治療法です。 衝撃波は水に近い内臓にはほとんど影響なく、尿の流れで自然に排泄 されるほど小さく破砕します。痛みが少ないため、麻酔はせず、 痛み止めのみで行います。高齢の方や、他に病気のある方でも比較的 安心して治療を受けられます。当科ではリチャードウルフ社の Piezolith 3000を使用しています。



Piezolith 3000の特徴は、

- ・超音波とX線による同時探査機能を備えているため、あらゆる部位の結石に対し治療を行うことが可能です。
- ・圧電素子を用いた衝撃波発生装置を用いることにより、衝撃波による痛みを軽減し、無麻酔での 確実な破砕治療を可能にしています。
- ・一般に破砕しにくいといわれている尿管結石に対しても強力な破砕力により確実な効果をあげる ことができます。

当科では1泊2日の入院で治療を行っています。複数回の治療を行う際には、入院期間を約1週間空けて行っています。ESWL単独でどうしても破砕されない場合には経尿道的尿管砕石術(TUL)を行います。

尿路結石の患者さんでお困りの際は、ご紹介をよろしくお願いします。



Piezolith 3000 (ドイツ、リチャードフルフ社製)

《 臨床検査室における臨床研究活動について 》

臨床検査室 担当室長補佐 石山 進 ・ 主任 角野 忠昭

臨床検査室では、日常の検査業務とともに臨床研究も行っており、今年度は科学研究費助成 事業(独立行政法人日本学術振興会、奨励研究)に2題採択されました。その他自主研究1題を あわせ、紹介いたします。

1. 石山 進「膀胱癌における免疫細胞化学的層別化による予後予測因子の検討(課題番号: 21H04264)」

膀胱癌は組織診や画像によって診断されますが、患者さんに負担の少ない尿検体に免疫細胞化学を加えることで、良悪性の鑑別や悪性度の評価などに役立てる研究をこれまで行ってきました。近年、膀胱癌においても乳癌のように遺伝子解析から、luminal typeと basal type に分類され、悪性度や予後との関連性が示唆されています。本研究では尿検体にGATA3 と CK5/6 の免疫細胞化学を施行しluminal typeと basal type に分類し、悪性度や予後予測因子としての臨床応用が可能かを検討します。

2. 角野 忠昭「COVID-19と各種炎症性マーカーの比較検討(課題番号:21H04259)」

COVID-19感染症は重篤な肺炎を引き起こすウイルス感染症であり、発症後早期に診断、適切に治療を行うことが重要です。一方で、感染していても無症候で経過する症例もあるため、血液検査から予測や重症度判定が可能となれば、患者ごとに治療方針を決定することができ、また重症化を防ぐことが可能となります。近年、プレセプシンなど新しく鋭敏なマーカーが重症度の評価に活用できることが報告されています。より精度の高い検査を目指し、これらの検査法の意義および治療・診断における有用性、検査の留意点について検討します。

3. 角野 忠昭「eGFRを用いた腎機能低下予測と専門医介入の効果(自主研究)」

現在我々は、臨床検査システムから全患者を対象に、腎専門医紹介基準に該当する慢性腎臓病 (CKD)患者を抽出し、主治医へと報告しています。適切な段階での腎専門医への紹介を促すことで、腎機能低下患者を早期に発見し治療を行うことで、腎機能の改善、あるいは透析導入までの期間を延長できないかと考えています。さらに、腎専門医紹介後の腎機能も追跡することで、腎機能改善に関わる因子を調査し、腎機能改善が期待できる効果的なCKD患者介入についても併せて検討しています。糖尿病患者さんの腎機能改善率は非常に高く、積極的な腎専門医介入が望まれます。なお、本研究につきましては、9月のオープンクリニカルカンファレンスにおいて詳細をご報告する予定です。

左より、角野主任、石山担当室長補佐

《新任医師のご紹介》



脳神経外科 こばやし まさあき 小林 雅明

[得意分野]

脳神経外科一般

金沢大学附属病院から異動してきました。 学生の時はテニス部に所属しており、 スポーツ全般、特に球技が好きです。普段も 時間があれば体力が落ちないようトレーニング しています。

脳神経外科医としてはまだまだ未熟ですが、 精一杯がんばっていきたいと思いますので、 よろしくお願いいたします。

※週3日、令和3年9月末までの勤務となります



《 オープンクリニカルカンファレンスについて 》

当院のオープンクリニカルカンファレンスは、今年度より原則奇数月の第一火曜日に開催して おります。集合形式とオンライン形式を併用したハイブリッド形式をとっておりますので、登録医 の先生方のニーズにあわせた参加のかたちをお選びいただけます。また、本カンファレンスは日本 医師会生涯教育制度の単位取得ができます。開催予定については随時お知らせしますので、是非 ご参加をお願いします。

<今後の講師予定>

令和3年 9月 神経内科医師 耳鼻咽喉科医師 臨床検査技師

令和3年11月 血液内科医師 外科医師 薬剤師

令和4年 1月 内分泌·糖尿病内科医師 泌尿器科医師 看護師

令和4年 3月 呼吸器内科医師 眼科医師 リハビリテーション療法士

※日程・講師は変更となる場合があります



金沢市立病院 地域連携室

〒921-8105 金沢市平和町3丁目7番3号 TEL:245-2626(直通) FAX:245-2693(直通) http://kanazawa-municipal-hosp.com/